

▼事業目的

"つながり続けるまちと団地とひと"をコンセプトに高齢化・空き家が問題視されている大岡団地の再生を目指すプロジェクト。

▼現状と目標

①-1 定期マルシェの開催(オオオカダンチマルシェ)

2020年から開催を続けてきた事で大岡団地の認知度は上がったと認識しているが、継続開催する事でさらに認知度を上げ空き家減少を目標とする。

①-2 団地朝市-ダンチアサイチ-を新たに開催

ダンチマルシェやワークショップによるヒアリングで顕在化した、より日常に近い課題を解決するために実施する。

② 空き店舗を利用した大学研究室×コミュニティスペースの創出

東京都市大学と連携してコミュニティスペースを作る事で、キナリ舎だけでは成し得ない方法で住民の困り事の解消や住民同士のコミュニケーションの場とする。

③ 空き家のリノベーション・家守業

そのままの状態不動産情報を公開しても長期に渡って空き家となっているケースが多い。古い団地の良さを残しつつ今の暮らしに合うようリノベーションしたモデル住居を実際に見てもらうことで新たな住まい方をイメージしやすくなったり団地のイメージを変える。

▼活動と成果

① ダンチアサイチはお客さんの状況を見ながら曜日や時間帯を変えながらも月に2回定期開催を続けてきたことで、楽しみに毎回来てくれるようになったお客さんがいる一方、一定数以上の集客が伸び悩んでいるが、出店者さん達にも団地への愛着と常連客とのつながりができてきたことで出店者さん達に主体性が生まれてきている。

② 空き店舗の所有者との交渉が難航した事、東京都市大学の研究室閉鎖に伴い団地内でのコミュニティスペースを作ることは頓挫したが、2022年7月から沼津市新町のシェアオフィスシンマチの管理運営をキナリ舎が行うことになり団地から離れた場所にはなるが、シンマチは移住者が沼津暮らしを豊かにする場としても今後活用していき、移居前から移住後のサポートを行う拠点となることで団地の若年層の増加にも繋がると予想される。

③ 2023年2月から団地の家守業（キナリハウス）がスタート。東京から移住してきた建築家夫婦と共にリノベプランの設計から、リノベ作業まで一緒に行い団地暮らしの部屋を作るところから引越し後の暮らしも共に楽しむ状況が作れている。古く価値がない建物ではなく、豊かな暮らしができる建物としての魅力を今後も発信していきたい。

▼オオオカダンチマルシェ



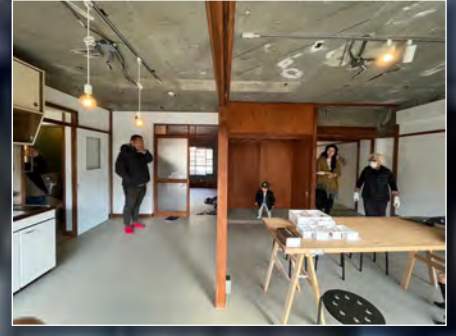
▼ダンチアサイチ



▼コミュニティ型シェアオフィスシンマチ



▼キナリハウス



▼振り返り課題

- 続けてきたことで、マルシェ内で団地住民で結成しているクラブの発表の場となったり団地住民内で高齢者コミュニティに若年層が加わったり、新たな変化がうまれている
- 団地のリノベーションした部屋を住民にも見てもらう事で次世代に受け継ぐ物件の価値を再認識できたのではないかな
- マルシェやアサイチの集客 リノベ物件の発信不足

▼相関図

